

本草図譜卷之六十二目錄

果部

桃	一	山桃	一
五月早桃	二	油桃	三
秋桃	一	十月冬桃	五
一	種	一	種
既子桃	一	一	種
一	種	一	種

本草図譜 卷之六十二 果部



桃符	栗	一種	一種	天師栗	一種	苦棗
かしのきかた	く	わくわくく	三度く	とち	朝鮮あつめ	不詳
桃楸	一種	茅栗	一種	棗	仲思棗	
かしのきかた	まこく	まこく	そそめ	あつめ	物印忙の番	

桃鼻	一種	一種	一種	一種	白桃	一種
かしのきかた	單辨	さかあぶ	單辨	ささあぶ	みんせら	きく
桃膠	一種	一種	一種	緋桃	一種	一種
かしのきかた	千葉	あめん	八重	あめん	あめん	まこ
	十三	十三			十	九

本草図譜
 寄別
 九
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三



本草圖譜卷之六十二

東都 岩崎常正著

果部 五果類

桃

り和名 鋤和名 ちちま藻塩 じめり同上

み蔵玉 ヘルシキホ荷蘭蜜

天采典藉便 靚名物才 膳之同上

細煥本草和名 幻冕同上 金城同上 阿噌諸花

樹ハ李ニ似テ軟キ葉又李ニ似テ窄ク長ク実を下ニ三四年ナリ花アリ樹十一年ナリ
老レ種類甚ク多ク葉ノ載リ能ハ集解ニ説ク物也出ル桃仁ハ草薺淡紅ニ長ク

本草
圖譜
卷之六十二
五果類





五月早桃 解集
 ちよ、あつ、

花の早解淡
 紅実五月熟
 して紅色肉
 すと紅くて
 血の如く味い
 美なり

らんげ
 ちよ

本草図譜 卷之六十二



山桃 解集
 ちよ

毛桃 解集
 禿桃 上同

田村氏実小切て毛何ク核大ナク皮
 少ク味い美なりはしつろ花早解淡
 紅くて実小く堅く毛あり

本草図譜 卷之六十二





花單瓣淡紅葉紅紅色實圓小して香の如く毛茸ありて花澤ありて
 紅色あり味い甘美あり又青皮をいふあり形状同ふして紅色は
 一種や皮をいふと不あり花千葉淡紅色あり一種花單瓣ありて淡紅實二實
 あるものあり是汝南圃史の茸茸桃之

油桃解集

奈桃州

皮をいふ

切も

光桃 圃史南

本草図譜
 卷之九



本草図譜

卷之六十二

花單瓣淡紅
中て大小実
肥大之懸て
黄白色甜水
多し本朝食
鑑ふ花淡紅実
肥大をよつ
とつとつと

云々汝南圃史
形円色晝白
大可四寸許
とつとつと



一種

銀桃 圃史 水密桃 上

よろいとつとつと
今俗ふよろいとつと
よろいとつと



本草図譜

卷之六十二

秋桃解

あつと

花單瓣淡紅
色中て実ふ
つとつと似て肉厚
く微し七あつ
微し紅色肉白
色味い佳し



本草図譜 卷之六十一

本草図譜 卷之六十一

十月冬桃解集

ふゆの草 切んか

花三月開く單瓣
淡紅なり十月
霜を經て猶熟
於桃に似て味
稍佳之集解の
崑崙桃西王母桃
仙人桃霜桃恐
ハ同物なり



一種

わきま

花單瓣淡紅なりて空はきまなり似
て味は佳なり枝直立ちて竹節の如し
中山傳信録の常桃なり





本草図譜
卷之六



本草図譜

卷之...

...

一種

乃心くま

花淡紅カーて
瓣細くサ蒲公英
似の花よ似之心
稍紅色



一種

源平

日月桃 鏡花

花重瓣より一花の心
小紅白を一帯之令ち
開く又さうすと云ハ紅
白錯雜ものあり



本草図譜

卷之...

...



本草図譜 卷之二十一

一種 きんぎょ

水紅色やう
菊花の如し



本草図譜 卷之二十一

一種 きんぎょ

菊 桃鏡花

花重瓣紅色形
千瓣菊の如し



本草図譜 卷之二十一

菊花

桃鏡花

千瓣菊



本草図譜 卷之二十一

一種

あろろろろろろろ

枝條細く叢生し花白色重瓣なり
の類にあろろろろろろろ



本草図譜 卷之二十一

白桃 集解 通名

碧桃 改南 圃史

花草解 白色枝條
並に葉も小緑色
實はわけて味は苦
食はべからず集解の
銀桃恐らく同物なる





本草図譜
 卷之九
 花部





緋桃 葉解
通名
胭脂桃 汝南
圖史
枝條並ひ子嫩
葉紅色花單瓣
深紅より小

一種 八重緋桃

枝條緋桃と
同く花重瓣
深紅なり



枝條下葉
して花ハ
源平と曰

深紅色中を隨ふ
牡丹の趣きあり覺れり

一種

凡桃 灌園草
本綴

晚紅 土月

重瓣ハ綠桃中て早晚の二種
あり晚き物を有らんはと
云ふ

本草図譜
卷之二十一
十



本草図譜 卷之六十一

本草図譜 卷之六十一

一種

樹ハ肥テ幹脚高ク凡葉長ヤク繁密ニ西洋の如キハ
形ノ如ク花單瓣淡紅ノ物多ク又重瓣のもの又紅白雜リ開ク
物等あり實尖リありて舶来ノ巴且杏ハ似たり汝南圃史ハ矮桃高
一二尺實如金桃と云々ハ百花詩ハ壽星桃短而千瓣と云々ハ

- あめんとう
- 孩児桃
- 道州桃
- 壽星桃
- 矮桃



一種

ナカニハ

枝條下垂テ花
重瓣紅色奇





本草図譜

卷之九

十一



本草図譜 卷之二十一 十三

桃 泉

もしのききあり

桃 膠

かこのききあり

桃 符

田村氏云戸守りて中華の桃の木を伐りて故桃符と云り
と日本もてん桃を用やる者あり

桃 楸

かこの木のき

田村氏云桃の木の皮を剥いてハヤクツの皮を剥いて桃の木を用やる者あり

栗

り 和名

君州果

名物 法言

大樹ありて春月葉を生れ長くして周りに軟刺あり初夏花あり形
鼠尾に似て長さ七八寸花の茎の本に毛を結ぶ刺多し秋の未熟の果は
自ら烈けて子頭は皮厚く黄褐色内は黄白色の栗皮あり肉黄色あり
子の味は丸く勝れり又丹波の産物名産にて大にこれ集解の板栗は
中三顆ありて一の尋常の若二顆なり其一顆は実を食せしむるを
別時珍云栗核よりこれを吹く時ハ音あり故に吹くといふと附方本
類栗子燭殼大栗と云凡栗を材と用れハ久しに腐朽せり





栗

ノ

本草
圖譜
卷之
十一



本草圖譜 卷之六十二



一種 さとろり
 六角とろり江

此物一穂の内
 不大積あり
 粟子ありと周
 りの小順六箇
 あり

一種
 一樹垂く穂を吐一穎
 ありものあり穂三つ小
 烈共実正四つと上
 稍尖り河味い強り
 勝れり

本草
 圖譜
 卷之六十二



本草図譜 卷之六十一

越前越後松前其外諸國寒地多樹大樹葉中夾廣人本末尖
 周り雲頭の如く春月葉の間花あり赤楊の如く似たり後實を焙ひ粉を
 おし熟を水に四裂して一椀二子あり形様柿の如く似て三尖有り又蒼白の
 形に似て大有り秋月採りて食れ味ハ栗の如し或ハ実より油を搾りて
 焚木と云は炭を焚きて其四方へ飛ぶ諸國にて此材焼杓子を作ると此木
 生れう菌をふちくけし云大毒あり宗奭の説ハ湖北一種施栗類内末
 尖即様栗様子形也と云恐らく此ありんり



本草図譜 卷之六十一





天師栗
と云

本草図譜
卷之六十二



本草図譜

卷之二十一

天師栗

とち 七葉樹

沙羅樹

海格

鎮江府志

深山子多し葉の形大栗の葉の如く中心に鋸齒あり一葉七葉集りつよ
太葉をむら夏月花を開き穂をむらをむら一花の大き五分五厘深紅
紅色秋に至り実を結ぶ形山茶の實の如く大栗の葉の如く
厚く青褐色自ら丸く中心の子出つ実一顆あり月々の栗の如く出
殻を去り曝し米粉に雜へて搗て餅と餅とあり食は木の理能良材一華
夷考木樹每枝生葉七片有花穂甚長而如栗花一秋後結實可食正所謂七
葉樹あつとつり南方草木状云廣外志を引て海格木樹似梧桐色白
葉似青桐有子如大栗肥甘可食出林邑と云

栗

あつめ

具原曰夏月小至て
芽を生れ故に名く

ホルストフロイ

荷蘭虫

威咨

本草知名
引名花

青花

弱枝

玉門

金帶

急止

栗樹

枚荒

人家の多く歳世夏月葉を生れ形母指の大ききて三の縦道より細葉
小五半一五月葉の間花ありつよて黄緑色後實を結ぶむら豆の如く
大なるもの母指の頭の如く熟して紅色味い甘し生れて食はれ八齒を
填れ樹ハニ大余小至一種くもあつめ蘭山の説云細腰あつものやて
是輒輕栗多しと云一種長き一寸余ありて西頭大者より丹波の保律
より生れ

本草圖譜

卷之二十一

十九

本草図譜 卷之十二



本草図譜 卷之十二

棗

あづめ



仲思棗

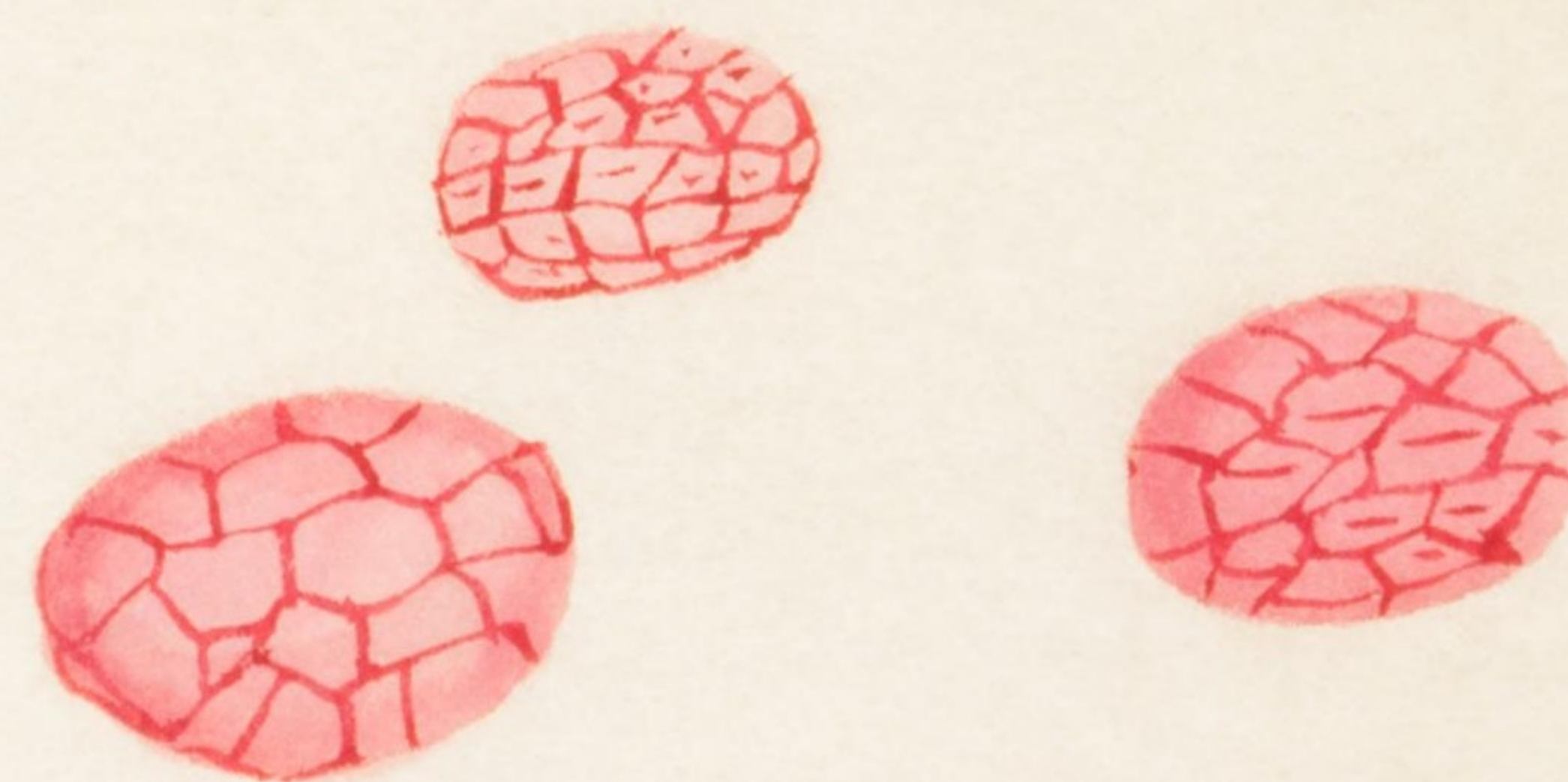
物印托載
る所の圖
の類をん



一種

朝鮮 ありめ

葉大やて刺あり赤
大やて狭く肉多く
本やて赤大なり此
網目の大棗やて薬用
に上品あり



本草図譜

卷之六



本草圖譜卷之六十三目錄

果部 山果類

利水	鵝梨	消梨	青梨	甘棠梨	赤棠
り	あしやき	まろやき	あまや	りんごあ	とくろのとう
一					五
乳梨	水梨	赤梨	鹿梨	棠梨	海紅
ろあ	ろあ	ろうせん	いご	かまのとう	かまのとう
二					

本草圖譜 卷之六十三目錄

本草圖譜 卷之六十三

